

今回ゆうりさんとの静岡旅に同行させていただきました！みくです！

桜の園を見るのは実は2回目でした。ちょうど三年前に桜の園を見た時は観劇も全く慣れていなかったこともあって、登場人物の多さとセリフのとっつきにくさからあまり楽しめませんでした。しかし今回ゆうりさんと一緒ということもあって、もう一回チャレンジしてみようとイベントに参加することにしました！

8：15に pasta 新宿の待合室で会い、バスに乗り静岡に向かいます！高速バスには事故渋滞のため約5時間のる羽目になりました。。。開演時間の5分前に目的地に到着。バタバタの開幕でしたが、ゆうりさんと大慌てで調べ物をしたり、タクシー乗り場まで走ったりと今考えるとそれはそれで楽しかったです笑



行きのタクシーではおしゃべりなおばさま運ちゃんに運転してもらいました。私たちが東京からきた客だとわかると「静岡芸術劇場と富士山を入れて写真を取りなね」と教えてくれました笑 静岡芸術劇場はとても広くて綺麗でした。



桜の園は予習した甲斐がありとても面白かったです。最初は少し暗いというか重い雰囲気でしたが、エピソード（不運な青年）が出て以降雰囲気も軽くなり劇場から笑いが溢れる瞬間も多々ありました。

この劇について予習した際、「チェーホフはこの劇を喜劇としたが内容的に悲劇と言われている」という記事を多く見ました。さらに「この劇が悲劇か喜劇かについて」「この劇の喜劇的なところをあえて見出す。」といった内容の論文もありました。そのため私もこの劇の喜劇と言われる部分を探しそれを感想としてここに書こうと思っていました。しかし今回の劇は悲劇とはどうしても思えないような演出で終わりました。確かに途中までの展開は暗く、胸が重い展開が続きましたが、最後貴族たちが土地を追い出される瞬間などは新たな旅立ちとしての要素が強めで、土地を手に入れて夢を叶えたロバーヒン、新たな土地で仕事を始めるワーリヤも含めてみんなそれぞれの道を歩み始めるというハッピーエンドに捉えられました。まあただ、、喜劇かと言われるとちょっとよくわかりません、、、（喜劇も悲劇もよくわからないのですが、、）その後アフタートークがありました。ぶっちゃけ個人的には劇よりも面白かったです笑 自分の感想をアフタートークを通して整理し、また解釈が及ばなかった部分も新しく知ることができました。

帰りは電車でゆっくり帰りました。劇の感想はそこそこに笑、ゆうりさんと近況を報告し合いながら帰りました。ガチ悩み相談会が始めてしまった時は私もなんだか笑っちゃいましたが、人生経験豊富なゆうりさんの話はめちゃめちゃためになりました。

電車の中ではもう珍しくなってしまった打ち上げ花火までみることができ、旅の最後にいい思い出ができました。



後日、計見さんにインタビューをしました！

私なんか聞けることあるのかな、と少し不安でしたが楽しいお話をたくさん聞けました。

特に私が面白いと感じたのは、国が違うことによる苦労のお話でした。

前回の劇作では演出家さんが直接稽古場に来ることなく（コロナのため）公演に持って行ったそうです。ある意味“現場の役者を信用して”のことだったとおっしゃっていました。今回はフランスからわざわざ日本へ演出家さんと役者さんがいらっしゃっての公演だったため、手続きに苦労したそうです。手続き以外にも、毎日の検温やマスクの着用の義務いるんな制約のもと活動していたそうです。しかし対面で稽古できるのはその苦労以上の喜びがあったといいます。

オンライン稽古は“楽”であるため、オンラインから対面になる際少し抵抗があったと言う話もありましたが、対面の方が稽古のやりやすさもそうですがやはり直で会う喜びや楽しさがあったそうです。

他にも計見さんの経歴のお話や、劇作のお話など沢山のことをお聞きすることができました。

コロナ下や異国間で、劇作を行うというのは本当に大変なことですし、それを行うSPAC、計見さんのすごさに感動しました。